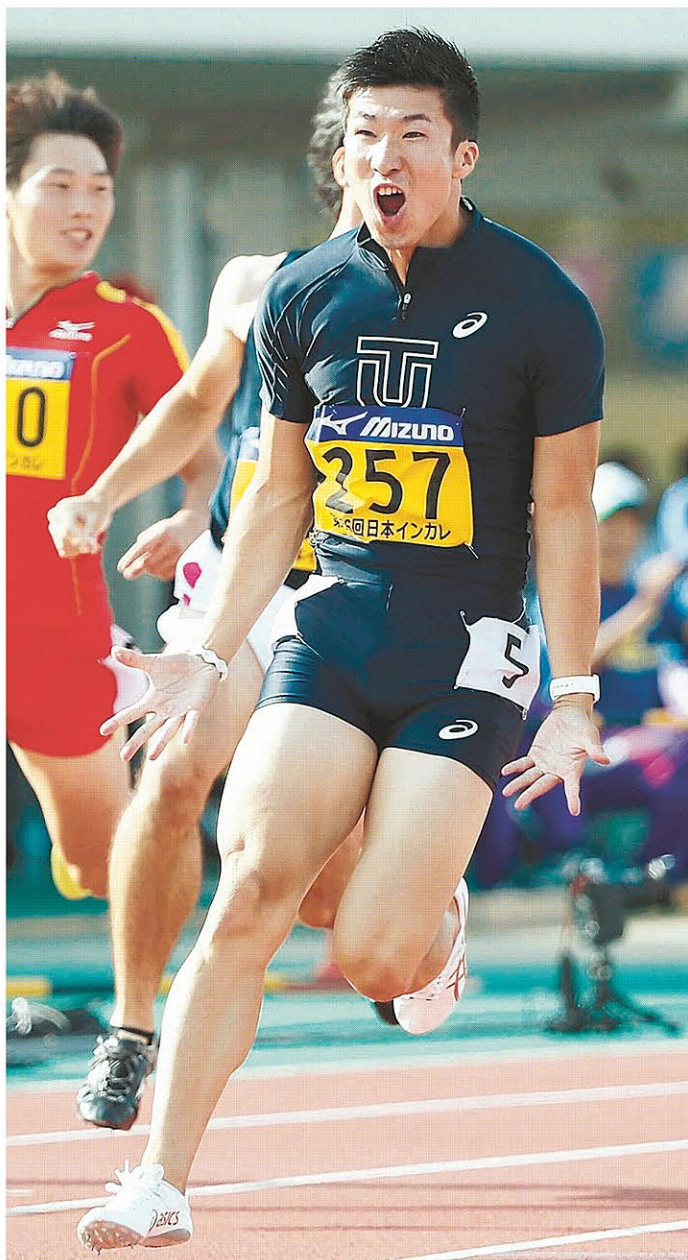




桐生9秒98

陸上男子100

「10秒の壁」破る



陸上男子の桐生祥秀(21) 東洋大Ⅱが9日、福島県 菅陸上競技場で行われた日本学生対校選手権の100m 決勝で9秒98の日本新記録を樹立し、日本人で初めて「10秒の壁」を破った。五輪の花形種目で、日本勢の長年の夢だった領域に、ついに足を踏み入れた。追い風1.8m/sだった。100分の1秒まで表示

する現行の電気計時では1968年にジム・ハインズ(米国)が9秒95で走り、世界で初めて10秒を切った。日本人は49年遅れで悲願の9秒台突入となった。日本勢は伊東浩司が98年アジア大会で日本記録を10秒00に更新したが、その後は足踏みが続いた。桐生は京都・洛南高3年だった2013年に10秒01。一昨年

には追い風参考で9秒87をマークしたが、公認記録での9秒台には届いていなかった。世界記録はウサイン・ボルト(ジャマイカ)が09年世界選手権で刻んだ9秒58。日本陸上競技連盟が認めた最初の日本記録は三島弥彦が1911年に出した12秒0。そこから106年を要し、新時代に突入した。

桐生 祥秀(きりゆう・よしひで)小学校時代はサッカーのGK。滋賀・彦根南中で陸上を始め、京都・洛南高2年の12年に100mで18歳未満の当時世界最高の10秒19。13年は4月に10秒01。14年は日本選手権初優勝、世界ジュニア選手権3位。15年3月のテキサス・リレーで追い風参考ながら9秒87。400mリレーで16年リオデジャネイロ五輪銀メダル、17年世界選手権銅メダル。176cm、70kg。21歳。滋賀県出身。

日本学生対校選手権の男子100m決勝で9秒98の日本新記録をマークし、雄たけびを上げる桐生祥秀=9日、福島県菅陸上競技場